

令和3年度 第1回 子ども部会 会議録

日時 令和4年1月13日（木） 午後1:00～2:00
場所 602会議室
出席者 有馬部会長、茂木副部会長、堀野委員、臼井委員、斎藤委員、
小柴委員、桜井委員
事務局 太田
欠席 菊池委員、谷川委員

○部会内容

資料確認、出席者自己紹介

1. 開催について

今回はテーマを定めず、各立場からにおける情報交換とする。

2. 障害福祉に関する諸課題について

有馬部会長：前回の議題「医療的ケア児受け入れ」についてはどうなったか。

桜井委員：9月の法改正に伴い、現在市としてのガイドラインはない。現在は個別対応とし、各園長とともに医師からの指示書を共有している。

令和4年4月の保育園申し込みは700件。そのうち医ケア児は1件。公立保育園看護師会に参加し、難病指定児や超未熟児は10件弱と聞いている。

臼井委員：医療的ケア児の基準は？

桜井委員：ガイドラインの作成については東京都が示してから作成予定。この場での協議はしないものとする。

有馬部会長：自立支援協議会本会3年度は1度書面開催され、2年度事業の振り返り、PDCAの報告が主であった。

堀野委員：web会議は導入できないか。検討できると良い。

有馬部会長：現在の諸課題について、次年度にむけた意見はあるか。

小柴委員：一つに不登校について。このみが日中一時支援で対応をしているが、登校できない理由を探り、登校できるように学校との連携が必須である。但し学校によって対応の差はあり、社会資源をどう活用していくかが課題である。二つ目に職員スタッフのスキルの問題。資格取得応援をしてモチベーションアップにつなげたいところ。

堀野委員：学齢期のお子さんについての親の考え方が、学校任せ・放課後デイな

ど障害サービス任せと感ずることがある。若い親世代にも、親の会への入会を勧めていたが実際には少ない。横のつながりはあるが、縦のつながりはなく、また求めているか。学校 PTA 活動が減っていることも影響しているかもしれない。齋藤委員：知的障害者のスポーツ振興や機会の拡大に携わり、ダウン症カテゴリーの陸上大会を実施、好評であった。また、こども子育て会長として、一つに学童民間委託に伴いスタッフ不足の問題。二つ目に医療的ケアの件、現在は子ども子育て会議でも数字をあげている状況であるが、その背景を知るべきと考える。関連して自殺対策については報道の仕方による影響があるが、最近では相談窓口も知らせるなどの配慮も見える。三つ目に中央区青年学級に携わり、生涯学習を目的とした知的障害者の大学（イメージ）を検討している。四つ目に、先ほどの堀野委員の SNS 活用については、この時代、自身に必要な情報だけを自ら取りに行けるため、会への所属にはつながりにくいと思われる。

茂木：センターは日中一時預かり事業として、必要な方に必要なサービスを、と考える。しかしながら「毎週日曜日お願い」「月・水・金お願い」の依頼も多く、子供にとって、親にとってどうなのかと感ずる場面がある。

有馬部会長：以前は移動支援を活用し、余暇としてプールや公園で社会性を養い、学びの場であった。放課後デイが増え選択の幅が広がったものの、果たしてこのままで良いのか。例えば兄弟 2 人の依頼があり、調整して 1 人なら受け入れ可能に対し、では結構ですと。それぞれの子供に向き合う時間にならないものか。またスタッフは母親目線で細やかにみているが、スキルアップが難しい状況。

白井委員：重心や医療的ケアが療育につながるまで、母親の孤立が目立つ。企画、情報提供をしてつながり作りたい。

有馬部会長：医ケア、不登校は家庭の課題もあり、連携はどうしていけばよいか。

小柴委員：不登校なら〇〇へ相談、がない。今のところ、このみさんに相談という流れ。

有馬部会長：子ども部会で事例検討もよいかも。市の青年余暇も進展がない。

齋藤委員：青年学級生の高齢化もあり、親亡き後について、社会が支えるべき。お金の使い方も現金からチャージの仕方など時代にあわせた対応が求められている。性教育も見直し、男性の育児参画を教えないと、母の負担増はなくなるらない。

有馬部会長：最近では公園に父親の姿が多くなった。次回は「連携」をテーマに検討し本会へ提案、システム化できるようにしたい。

小柴委員：市内の廃校を活用したい。様々なサービスが集まってコラボするような、基幹センター的なものが出来ると良いと考える。